

## UIST2010 参加報告

大槻麻衣 (立命館大学)

10月3日から7日までアメリカ, NYにおいて, ACMが主催するUIST (ACM Symposium on User Interface Software and Technology) が開催された (図1). UISTはヒューマンインタフェース分野では著名な国際会議の一つであり, 今年で23回目の開催となる. 今年の参加者は340人を超え, 過去最多となった.

口頭発表は全部で38件であり, 内Full paperは31件, Tech Noteは7件, 採択率は合わせて18%であった. Best paperはMechanical Turkを利用して文章の短縮や校正等の編集作業を支援する“Soylent: A Word Processor with a Crowd Inside” (Bernstein *et al.*, MIT), Best student paperには視覚障害者のための, 視覚的な質問に (ほぼ) リアルタイムで回答する, “VizWiz: Nearly Real-Time Answers to Visual Questions” (Bigham *et al.*, Rochester Univ.) が選ばれた.

その他には, テーブルトップシステムにペンとタッチジェスチャを導入した“Pen + Touch = New Tools” (Hinckley *et al.*, Microsoft Research) がごくシンプルなアイデアながら完成度が高く, 目を引いた. また, Madgets (Weiss *et al.*, RWTH Aachen Univ.) という電磁石を用いて実物のスイッチやスライダを動かす, よりリッチなインタラクションを提供するという研究も発表された.

ポスター・デモ発表では各ブースに人だかりができ, 活発な議論が行われていた. 前回から始まった Student Innovation Contest では, キーボード (図2) を用いた多数のデモが展示されており, 筑波大の落合氏が 2nd Most creative 賞を受賞した. その他のデモには, SqueezeBlock (Gupta *et al.*, Washington Univ.) という柔らかさを提示できるデバイスが文字通り大変好感触であった. 他に触覚関連としては磁石を内蔵したペンとタブレットで GUI 操作に摩擦感を付与するもの (Hemmert *et al.*, Deutsche Telekom Lab.) や, 電極をディスプレ



図1 会場の Judson Memorial Church

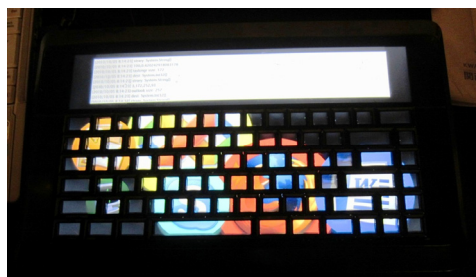


図2 Student Innovation Contest で課題として提示されたキーボード. 全てのキーとキーボード上部にタッチディスプレイを備えている. 画像は関西学院大河野研究室チームのもの.



図3 Women of UIST lunch に向かう女性参加者達. かなりの人数 (40人程度) が参加. イ全面に埋め込んだ触覚提示デバイス (Bau *et al.*, Disney Research) 等もあった.

また, 今回は女性向け昼食会 (会場付近のレストランで昼食を取りながら雑談する) に参加した (図3). 自身は専ら聞き役に回っていたが, 活気溢れる女性研究者のやり取りにエネルギーを貰った気がした.

次回のUISTは2011年10月16日から19日まで, カリフォルニア州サンタバーバラで開催される.